

Special Exhibition

The *Iris* Screens, National Treasure: Japanese Art and Design

特別展

国宝・燕子花図屏風

デザインの日本美術



尾形光琳 (1658 ~ 1716) の筆になる国宝「燕子花図屏風」は、絵とデザインの境界線上に位置する作品です。群青を分厚く塗った花や、緑青を勢いよく刷いた葉など、画家の絵筆の介在は明らかですが、平面上の幾何学的なレイアウトが作品の核心であるのも間違いありません。

「燕子花図屏風」に結実するデザイン性、あるいは装飾性は、日本の美術が古来、内包してきたものでもあります。とくに、光琳自身が連なるやまと絵の伝統は、現実と対峙し、それを客観的に写すことより、自然や人々の営みと融和して、それを優美に表すことに意を用いました。可憐な草花が居室を飾る大画面絵画のモチーフとなったこと、あるいは、生活を彩る工芸品の意匠と絵画の親密な関係も、そうした事情と無縁ではないでしょう。

一方、「燕子花図屏風」は、草花図でありながら和歌や物語とも関わると考えられています。書芸術としての和歌の鑑賞は料紙の美麗化を促すとともに、和歌と絵画との多様な結びつきを生み出しましたが、「燕子花図屏風」は、デザインという手段によって文学の世界を象徴的に表すことに挑み、成功するのです。

本展では、「燕子花図屏風」を中心にすえ、近世の作品を主にとりあげながら、デザインの観点から日本の美術をみつめます。

2024年 4月13日(土) ~ 5月12日(日) 日時指定予約制

根津美術館 NEZU MUSEUM <https://www.nezu-muse.or.jp>

根津美術館
NEZU MUSEUM





国宝 ^{かきつばた ずびょうぶ} 燕子花図屏風
尾形光琳筆
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 18世紀
根津美術館蔵



総金地に咲き誇るカキツバタの群生。『伊勢物語』第9段「東下り」の八橋の場面に着想を得つつ、^{あずまくだ やつはし}裕福な注文主を想定させる高品質な絵具をふんだんに用い、かつ現代のグラフィックデザインを先駆ける作品である。



平安時代に制作された「三十六人家集」のうち江戸時代に西本願寺から流出した「業平集」の断簡。^{ごふんじ きら}胡粉地に雲母で華麗な文様を摺り出した料紙にさらに銀泥で繊細な下絵が加えられる。光琳の生家・尾形家に伝来した。

^{おがたざれ なりひらしゅう}尾形切（業平集断簡）
^{ふじわらのきんとう}藤原公任筆
1幅 彩箋墨書
日本・平安時代 12世紀
根津美術館蔵



^{せんめんかい いがかん}扇面歌意画卷（部分）
1巻 紙本着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵

和歌とその歌の内容を描いた扇型の絵を集めた「扇の草子」と総称される作品の一つ。機知的に表された絵から和歌を判じる^{うたえ}〈歌絵〉の伝統を継ぐ。それは、「燕子花図屏風」の制作と鑑賞にも通じるものである。

草花模様の屏風と襖



^{さくらけしずぶすま いわん}桜芥子図襖 伊年印
4面 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
大田区立龍子記念館蔵

画面上方に満開の桜が放射状に枝を伸ばし、下辺には芥子を中心とする草花がブーケのようなまとまりを作って並ぶ。江戸初期に^{たわらやそうたつ}俵屋宗達の工房で制作された大画面草花図の中でも、ひときわデザイン性に優れる作品。

和歌と物語のデザイン

重要文化財
かすがやまきえすずりぼこ
春日山時絵硯箱
1口 木胎漆塗
日本・室町時代 15世紀
根津美術館蔵



意匠は「山里は秋こそことにわびしけれ鹿の鳴く音に目を覚ましつつ」の和歌に基づく。鹿の姿を生き生きと捉えつつ、抽象化されたまるやかな山、そして月や秋草を大ぶりに配する。そのまま、やまと絵の世界である。



たそでずびようぶ
誰が袖図屏風
6曲1双 紙本金地着色
日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵



いこう
衣桁に様々な着物を掛けた様子を描く、日本以外では例を見ない絵画作品。装飾性の中に、現実の着物の技法までも推測できるようなリアリズムを備える。古歌にちなみ「誰が袖図」と呼ばれるようになったのも洒落ている。

同時開催

展示室5 地球の裏側からこんにちは！ —根津美術館のアンデス染織—

根津美術館の染織品コレクションの中では稀有な存在のアンデス染織。紀元前のパラカスからインカまで、幅広い時代のカラフルでユニークな作品たちをお楽しみください。



きれ
裂 フェリーノ模様
2枚のうち1枚 獣毛
ペルー・パラカス文化
紀元前2～前1世紀
根津美術館蔵

ネコ科動物のフェリーノを象った刺繍による神像。体内に胎児のようにネコ科動物があらわされているのは、フェリーノが神格化されていることを示す。

展示室6 初風炉の茶

りっか
立夏を過ぎ、茶室で初めて風炉を用いることを「初風炉」と呼びます。これより、夏向けの清々しい茶道具の取り合わせが始まります。



こそめつけこいみみたかさごはないれ
古染付鯉耳高砂花入
景徳鎮窯 1口
中国・明時代 17世紀
根津美術館蔵

日本からの注文によって中国の景德鎮窯で生産された古染付の花入。前後に描かれた人物を、謡曲「高砂」の老夫婦に見立て高砂手と呼ぶ。

関連催事： 展示室1・2 国宝・燕子花図屏風—デザインの日本美術—

●スライドレクチャー

担当学芸員がスライドで解説します。

- ・4月19日(金) 11時30分～12時15分
- ・4月26日(金) 11時30分～12時15分
- ・5月8日(水) 17時30分～18時15分 (19時まで夜間開館中)

会場：根津美術館 講堂

※ 当館ホームページから参加をお申し込みください。美術館入館料が必要です。

各レクチャーは同内容です。

展示替え

展示室3 仏教美術の魅力—日本の小金銅仏と仏具—

日本では飛鳥時代から作り続けられてきた小金銅仏。この度の展示では、飛鳥から鎌倉時代までに制作された小金銅仏と仏具をご覧ください。

観音菩薩立像(部分)
1 軀 銅造鍍金
日本・奈良時代 8世紀
根津美術館蔵



展示室4 古代中国の青銅器—青銅鏡展示— [連弧文のある鏡]

連弧文とは円形を半分に切り鏡の縁に並べた文様で、前漢時代に現れます。それまでの龍や鳳凰などの動物文様から一変し、地紋の無い鏡や、植物をデザイン化して文様とした、どこか楽しく愛らしい鏡をご覧ください。

星雲文鏡
1 面 青銅
中国・前漢時代 紀元前1世紀
根津美術館蔵
村上英二氏寄贈



その他の情報

夜間開館

5月8日(水) から
5月12日(日) は
午後7時まで開館。
(入館は閉館30分前まで)



庭園のカキツバタ

作品の鑑賞とともに、カキツバタの咲く庭園の散策もお楽しみください。
(例年4月中旬から5月上旬にかけて開花します。)

※最新状況、追加の催事については、当館ウェブサイトですぐご案内いたします。

開催概要

展覧会名 特別展「国宝・燕子花図屏風ーデザインの日本美術ー」

日時指定予約制

スムーズな入館と快適な鑑賞のために、当館ホームページで日時指定入館券をご購入ください。(招待はがき等をお持ちで入館料無料の方もご予約ください。)

主催 根津美術館

開催期間 2024年4月13日 [土]～5月12日 [日]

開館時間 午前10時～午後5時
※ただし、5月8日 [水]～12日 [日]は午後7時まで開館。入館はいずれも閉館30分前まで。

休館日 毎週月曜日
※ただし、4月29日 [月・祝]、5月6日 [月・振替休] は開館し、5月7日 [火] 休館。

オンライン日時指定予約 一般 1500円 (1300円) 学生 1200円 (1000円)

- ・()内は障害者手帳提示者及び同伴者1名の料金。中学生以下は無料。
- ・当日券(一般1600円、学生1300円)も販売しております。
(ご予約の方を優先してご案内いたします。当日券の方はお待ちいただくことがあります。
混雑状況によっては当日券を販売しないことがあります。)
- ・2024年4月9日 [火] より当館ホームページで予約を受け付けます。
- ・ご予約は1グループ10名までとさせていただきます。

アクセス 地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線〈表参道〉駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、
B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所 〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1

お問合せ Tel. 03-3400-2536 (代表)
website <https://www.nezu-muse.or.jp>

広報・取材のお問合せ 学芸部 広報課 所/村岡
Tel. 03-3400-2538 (直通) e-mail: press@nezu-muse.or.jp

当館の広報制作物に関して、郵送からメール配信への切り替えをご希望の方は、根津美術館 広報課へ
どうぞお知らせください。(press@nezu-muse.or.jp)

次回展 企画展「古美術かぞえうた一名前に数字がある作品ー」

2024年6月1日 [土]～7月15日 [月・祝]

作品名にある数字は、形や色、モチーフなど、その作品にとって重要な意味を持っています。数えること
が見ることにつながるのです。



左：商山四皓図 啓宗筆 日本・室町時代 16世紀
右：三彩壺 中国・唐時代 8世紀
いずれも根津美術館蔵

*本資料掲載の内容は、予告なく変更になる場合がございます。最新の情報は当館広報課へお問い合わせください。(2024.1.)